



Source: CQG, Inc. © 2006 All rights reserved worldwide.

- 9日** 米大統領選で民主党候補のバイデン前副大統領の勝利が確実となり、米政治の不透明感が後退すると、投資家のリスク志向が高まり円売り・ドル買いが優勢になった。米製薬大手ファイザーが開発中だったワクチンについての進展を発表すると、世界的な株高とともにドル円も買いが加速。米長期金利の上昇も後押しとなり、一時は105.65円まで上値を伸ばした。
- 10日** ドル円は昨日の急騰に対する反動から調整売りが先行。一時は104.82円まで弱含む場面も見られたが、その後は新型コロナウイルスのワクチン開発を巡る楽観的な見方を背景に株高が進んだ影響もあり、105円台を回復した。
- 11日** この日も新型コロナウイルスのワクチン開発を巡る楽観的な見方を背景にした株高・円売りの流れが継続。ドル円は一時105.68円と10月20日以来の高値を付けた。
- 12日** ドル円は国内輸出企業からの売りに押されて、アジア時間からさえない動きに。10月米CPIが予想を下回ったことで米長期金利が低下したことも手掛かりとなり、105.07円まで弱含んだ。
- 13日** ドル円は連日で国内輸出企業からの売りに押される展開。10月米PPIコア指数や11月米消費者態度指数(ミシガン大調べ)速報値が予想を下回る結果となったことも重しとなり、104.56円まで弱含んだ。
- 総括** 先週のドル円は上値の重い展開となった。週明け9日は米政局の不透明感後退や新型コロナウイルスのワクチン開発を巡る期待感から買いが先行。世界的な株高を支えにした買いも進み、105.65円まで上昇した。その後も11日に105.68円まで上値を伸ばすなど、ワクチン開発への期待と株高・円安相場が続いていたが、週末にかけては次第に上値を切り下げる動きに。105円台では国内輸出企業からの売りが連日観測されたほか、米物価統計や米消費者態度指数(ミシガン大調べ)速報値などの指標が予想を下回る結果となったことも売りを促した。週末を控えたポジション調整目的の売りなどもあり、13日には104.56円まで弱含んだ。

## 先週の注目された経済指標結果

日付	時刻	曜	通貨	指標名	比	月	前回値	予想値	結果
11日	10:00	水	NZD	RBNZ政策金利	*	*	0.25%	0.25%	0.25%
12日	16:00	木	GBP	GDP速報値	前期比	7-9月期	-19.8%	15.8%	15.5%
12日	22:30	木	USD	CPI	前月比	10月	0.2%	0.1%	0.0%
12日	25:45	木	EUR	ラガルドECB総裁発言	*	*	*	*	*
12日	25:45	木	GBP	ベイリーBOE総裁発言	*	*	*	*	*
12日	25:45	木	USD	パウエルFRB議長発言	*	*	*	*	*
13日	22:30	金	USD	PPI	前月比	10月	0.4%	0.2%	0.3%

一言コメント・・・10月米CPIが総合・コアともに予想を下回ったことを受けて、米長期金利の低下とともにドル売りが強まりました。また、7-9月期英GDP速報値や9月英鉱工業生産指数が予想を下回ったことでポンド売りも優勢になりました。英国とEUの貿易交渉の先行き不透明感もポンドの重しとなっています。

## 先週の注目された要人発言

10日02:12 スナク英財務相「ブレグジット交渉で大きな進歩を遂げた。合意は可能」  
 11日10:04 RBNZ声明「量的緩和の規模を1000億NZドルで据え置き」「必要とあれば政策金利を引き下げる」「消費者物価指数はターゲットレンジの下限のまま」「金融政策は長期にわたって刺激的であり続ける必要」  
 11日11:13 オアRBNZ総裁「国内外の経済活動は以前の想定よりも回復力がある」「インフレと雇用は長期間目標を下回っている」「銀行向けの融資プログラム(FLP)のレビュー後にマイナス金利を導入するかを判断するのは時期尚早」  
 11日18:37 テンレイロMPC委員「低金利の世界が長く続くことになる」「欧州はマイナス金利政策の肯定的な証拠を反映」  
 11日20:29 エルドアン・トルコ大統領「トルコはインフレを一桁まで低下させることを決意」「中銀の政策を十分にサポートする」「中銀の責務は物価安定」  
 11日22:10 ラガルドECB総裁「パンデミック緊急購入プログラム(PEPP)や条件付き長期リファイナンスオペ(TLTRO)はECBの主要手段であり続ける」「ECBの景気刺激策は規模と期間が重要」  
 13日01:56 パウエルFRB議長「米景気は予想より早く力強い」「コロナワクチンは中期的な良いニュース」「向こう数カ月間は厳しい時期になる」  
 13日18:18 シュナーベルECB専務理事「資産買い入れの強度やペースを議論しなければいけない」「金融政策だけではできない、財政政策も必要」「あらゆる措置を検討している」

一言コメント・・・ラガルドECB総裁が、12月に予定する追加金融緩和では「新型コロナ向けのPEPPやTLTROの拡大が焦点になる」との見方を示したことでユーロ売りが優勢になりました。クノット・オランダ中銀総裁が「ECBは12月の決定でいかなる政策も排除しない」と発言したこともユーロ売りを誘いました。

## 今週の経済指標

日付	時刻	曜	通貨	指標名	比	月	前回値	改定値	予想値
17日	09:30	火	AUD	RBA議事要旨	*	*	*	*	*
17日	22:30	火	USD	小売売上高	前月比	10月	1.9%		0.5%
18日	16:00	水	GBP	CPI	前月比	10月	0.4%		-0.1%
18日	19:00	水	EUR	HICP改定値	前年比	10月	-0.3%		-0.3%
19日	20:00	木	TRY	トルコ中銀政策金利	*	*	10.25%		15.00%
19日	未定	木	ZAR	SARB政策金利	*	*	3.50%		3.50%
20日	08:30	金	JPY	CPIコア	前年比	10月	-0.3%		-0.7%

今週の注目は・・・トルコ政策金利

# 週刊マーケットアナリシス 会員専用版レポート

会員サイトログイン後のページで  
ご確認ください

- 今週のドル円相場見通し
- 今週のGI24コメンテーターの一言
  - 荻野金男
  - 和田仁志
- 今週の注目経済指標
- 今週のテクニカルポイント
- 先週のコメント
  - 今井雅人
  - よろずのつぶやき

情報提供元：株式会社DZHフィナンシャルリサーチ

株式会社DZHフィナンシャルリサーチより提供している情報（以下「情報」といいます。）は、情報提供を目的とするものであり、特定通貨の売買や、投資判断ならびに外国為替証拠金取引その他金融商品の投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はあくまでお客様ご自身の判断と責任において行ってください。また、予告なしに内容を変更することがありますのでご注意ください。商用目的で情報の内容を第三者へ提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容によって生じた如何なる損害についても、（株）DZHフィナンシャルリサーチは一切の責任を負いません。